

音楽科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)
第5校時 13:45~14:35
対 象 第2学年6組 35名
学校名 中学校
授業者 〇〇 〇〇
会 場 音楽室

1 題材名 ウクレレの伴奏を工夫して弾き歌いをしよう

2 題材の目標

- (1) ウクレレの音色や響きと奏法との関わりを理解するとともに、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付ける。
- (2) ウクレレの音色や「おどるポンポコリン」のリズム、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫する。
- (3) ウクレレの構造や奏法による音色の違いに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組むとともに、ウクレレの弾き歌いに親しむ。

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 ウクレレの音色や響きと奏法との関わりについて理解している。 技 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。	思 ウクレレの音色や「おどるポンポコリン」のリズム、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現としてどのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	態 ウクレレの構造や奏法、音色に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。

4 指導観

(1) 題材観

昨年度より本校では、器楽の活動においてウクレレを使った学習を取り入れている。感染症防止対策の一環で、アルトリコーダーに替わる教材として始めたウクレレであるが、生徒は大きな関心をもって取り組んでいる。本題材では、「おどるポンポコリン」(さくらももこ作詞/織田哲郎作

曲)を扱い、友達とともに楽しみながらウクレレの演奏に取り組めるようにする。そしてウクレレによる伴奏を工夫し、それに歌を合わせること(弾き歌い)で、一層生徒たちの興味・関心を高めていきたい。始めに曲全体の流れと特徴を捉え、個人で伴奏の工夫を考える。次にペアで意見交換して表現の幅を広げ、続いてグループで試行錯誤することにより、一人一人の豊かな発想を基に、思いや意図を実際に音にしていくことの楽しさを実感できるような指導を目指す。友達と協力し表現を工夫することを通して達成感や充実感を得ることで、音楽学習への意欲が一層高まり、生涯にわたり音楽文化に親しんでいく態度を育てることができると期待している。

本題材は、中学校学習指導要領(平成29年3月告示)第2章第5節

音楽〔第2学年及び第3学年〕2内容 A表現

(3) 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫すること。

イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。

(イ) 楽器の音色や響きと奏法との関わり

ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

(ア) 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能

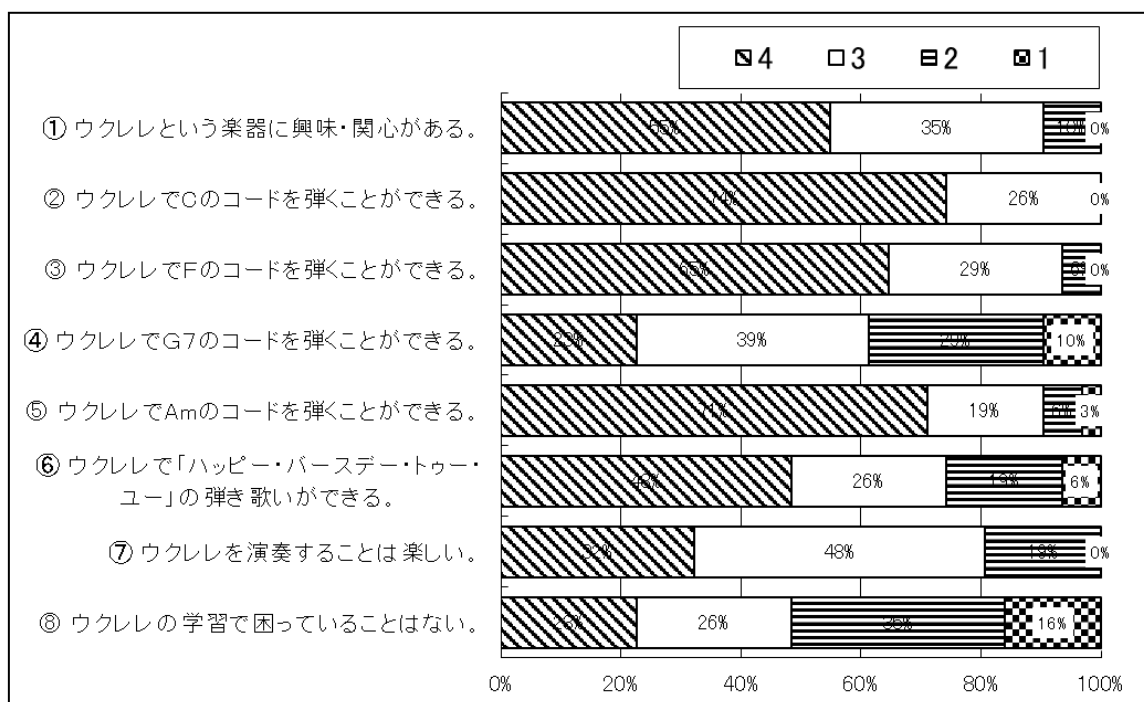
を受けて設定した。〔共通事項〕(1)アとの関連を図るに当たり、「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」2(9)で示されている音楽を形づくっている要素のうち、主に「音色、リズム、テクスチャ」を扱う。

(2) 生徒観

第2学年の生徒は、音楽学習に明るく前向きに取り組むことができている。第1学年後期の「ウクレレを弾いてみよう」の題材で初めてウクレレを手にし、C、G7、Fのコードを習得し「ハッピーバースデー・トゥ・ユー」(ミルドレッド・J・ヒル、パティ・スミス・ヒル作詞作曲/丘灯至夫訳詞)や「香水」(瑛斗作詞作曲)のコードを用いた伴奏に取り組んだ。また、「ひまわりの約束」(秦基博作詞作曲)の演奏では既習のコードに加えAmを習得し表現の幅を広げるとともに、友達と弾き歌いを楽しむ姿が見られた。

令和〇年〇月に第2学年205名(調査数197名、回答数195名)の生徒を対象に「ウクレレを使った学習に関するアンケート」を行った。質問に対して、四段階の数値(4…そう思う。うまくできる。/3…どちらかといえば思う。できる。/2…あまり思わない。あまりできない。/1…そう思わない。できない。)で回答することとし、結果は次項の図のようになった。この結果から、ウクレレという楽器そのものに興味・関心がある生徒は全体の約9割と多いことが分かった。また、ウクレレの演奏に対して楽しいと感じている生徒は全体の約8割に上った。コードについては、G7の押さえ方に難しさを感じている生徒が約4割を占めるため、個別に助言し指導する必要がある。ウクレレの学習で困っていることがあると回答した生徒に、具体的にどのような点に困難を感じているか訊ねたところ、「曲に合わせてコードチェンジ(コードを変えること)がうまくいかない。」「歌と伴奏がずれてしまう。」「私は手が大きいので左手の指同士がぶつかる。」「音が合っているか分からない、うまくチューニングできない。」などの声が上がった。技能面においては生徒のこれまでの音楽経験により、個々の課題を抱えていることが多いため、机間指導を重視し一人一人の気持ちに寄り添って積極的に声を掛け励ましていくようにする。また、「みんなでわいわい演奏するのが楽しい。」「もっと自分の考えを音で表現したい。」などの意見も多いので、技能

の習得状況に配慮したペアやグループを編成し、友達と教え合ったり思いや意図を伝え合ったりする時間を確保し、楽しい雰囲気の中で活動できるような器楽の学習を目指す。



4…そう思う。うまくできる。 3…どちらかといえば思う。できる。

2…あまり思わない。あまりできない。 1…そう思わない。できない。

(3) 教材観

ア 使用楽器 ウクレレ

中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）第 2 章第 5 節音楽の「第 3 指導計画と内容の取り扱い」2 (3)は、器楽の指導で用いる楽器の扱いについて以下のように示している。

イ 生徒や学校、地域の実態などを考慮した上で、指導上の必要に応じて和楽器、弦楽器、管楽器、打楽器、鍵盤楽器、電子楽器及び世界の諸民族の楽器を適宜用いること。（以下略）

以上に則った上で、数ある弦楽器の中からウクレレを選択した理由は、弦を弾けば容易に音を出すことができ、自分の右手の動きや左手の押さえ方を見ながら演奏することができる楽器だからである。6 弦であるギターと構造が似ているが、4 弦であるウクレレの方が易しく、旋律も伴奏も奏でることができる。また、小さな手にも適した細く短いネックであること、柔らかい素材の弦で手に優しく押さえやすいこと、手軽で安価であることなど、広く一般に愛される要素が多くあり、誰でも無理なく取り組むことができる楽器である。なお、生徒が扱うサイズはソプラノウクレレを基本とし、手の大きな生徒のために一周り大きなコンサートウクレレも準備する。

今日流行しているポップ・ミュージックやロックなどのポピュラー音楽においては、アコースティック・ギターやフォーク・ギター、エレクトリック・ギターなどの撥弦楽器が多く用いられている。また、ポピュラー音楽は、これらの楽器を用いて演奏されることが多く、コードを意識して作られた曲が多くあるため、ウクレレの演奏を通してコードの響きや役割を知ることは、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わるきっかけになると言える。そして、感染症対策を踏まえた授業づくりという視点からも、ウクレレは飛沫の飛散を心配する必要がなく、新しい生活様式を踏まえた音楽学習の教材として大きな可能性を秘めた楽器であると考えられる。

イ 器楽教材「おどるポンポコリン」（さくらももこ作詞／織田哲郎作曲）

CD音源：「おどるポンポコリン」B. B. キーンズ BMGビクター（第1時に使用）

テレビアニメ「ちびまるこちゃん」の主題歌として発表され、幅広い世代に親しまれ、生徒たちもよく知っている曲である。演奏に必要なコードはC、G7、F、Amの4種類で、サビの部分は一つのコードが2小節間継続しているので取り組みやすい。四つのコードで基礎的な奏法を確認しながら、生徒全員が1小節を4分音符でストロークして刻み（4ビート）、全曲通して演奏できるようにした後、この曲に合った伴奏の仕方を考え工夫して演奏する。

<ウクレレによる4ビートの伴奏> ※「おどるポンポコリン」の冒頭部分

歌の旋律
なんでも かんでも みんな おどりを おどっている よ ~

ウクレレ
C Am F G7

ウ リズム・パターンの提示

伴奏のリズムを工夫するに当たって、あらかじめ8種類のリズム・パターンの例を示す。これらのリズム・パターンを参考にして、様々な伴奏の工夫をストローク奏法で試すことができるようにする。個人の思いや意図を基にリズム・パターンを組み合わせ、それらをペアやグループで共有し、曲にふさわしい伴奏の工夫について考えを深められるようにする。なお、これらのリズム・パターンの他に、生徒が曲に合う新たなリズム・パターンを考えた場合はそれを取り入れることを薦め、伴奏の工夫に主体的に取り組もうとしている態度を賞賛する。

<リズム・パターンの例>


5 年間指導計画における位置付け




本題材に関連する器楽学習の題材は以下のとおりである。本題材における伴奏の工夫を考えて演奏する学習の後、第2学年後期では、ウクレレによる旋律の演奏に取り組み、旋律と伴奏を組み合わせた合奏の活動につなげていく。

第1学年後期	第2学年前期	第2学年後期
<p>○ウクレレを弾いてみよう（4時間） 〔主な教材〕 「ハッピーバースデー・トゥー・ユー」（ミルドレッド・J・ヒル、パティ・スミス・ヒル作詞作曲／丘灯至夫訳詞） 「香水」（瑛斗作詞作曲） 「ひまわりの約束」（秦基博作詞作曲）</p>	<p>○ウクレレの伴奏を工夫して弾き歌いをしよう（本題材・3時間） 〔主な教材〕 「おどるポンポコリン」（さくらももこ作詞／織田哲郎作曲）</p>	<p>○ウクレレでアンサンブルをしよう（3時間） 〔主な教材〕 「家路」（ドボルザーク作曲）※交響曲第9番「新世界より」第2楽章冒頭部分</p>
<p>器楽の学習を通し、ウクレレの音色のよさを感じ取りながら基礎的な奏法を身に付け、C、G7、F、Amの4種類のコードを習得し演奏する。</p>	<p>器楽の学習を通し、ウクレレの音色や響きと奏法との関わりを感じ取り、曲の特徴を生かしながら伴奏の仕方を工夫して演奏する。</p>	<p>器楽の学習を通し、ウクレレの特徴を理解し、曲にふさわしい表現を創意工夫しながら、旋律と伴奏を友達と合わせて演奏する。</p>

6 題材の指導計画と評価計画（3時間扱い）

知、技、思、態 …全員の学習状況を記録に残す場面

時	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態
第1時	<p>◎ウクレレの奏法を生かして、既習曲や「おどるポンポコリン」を演奏しながら、音色や響きと奏法との関わりについて理解する。</p> <p>○ウクレレの奏法について、第1学年までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウクレレの各部の名称を確かめ、チューニングを行う。 ・4種類のコード（C、G7、F、Am）の響きや左手のポジションを確認する。 ・友達の歌に合わせ既習曲「香水」や「ひまわりの約束」の伴奏を演奏する。 ・姿勢や構え方、指板の押さえ方、ストローク奏法（右手で何本かの弦を同時にかき鳴らす奏法）など、ウクレレを演奏するために必要な基礎となる奏法について、ペアで助言し合いながら演奏する。 ・他者からの助言を参考にして、自分がよくできたと思う点や改善点を整理し、ワークシートに記録する。 <p>○題材全体を通して学習の見通しをもち「おどるポンポコリン」の伴奏の工夫の仕方について考えをもつ。＜個人＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おどるポンポコリン」の原曲をCD音源で聴き、曲の雰囲気や特徴を捉える。 ・終始一定のリズム・パターンによる演奏と、伴奏のリズムの変化に富んだ演奏を、教師の模範演奏で聴き比べ、違いを感じ取る。 ・8種類のリズム・パターンで「おどるポンポコリン」のサビの部分でストローク奏法で演奏し、それぞれのリズム・パターンの特徴を感じ取る。 ・「おどるポンポコリン」の伴奏のリズムについて、リズム・パターンの例を基で考え、音に出して試す。 <p>○本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時を振り返るとともに第2時から第3時までの学習内容を見通し、本時に学習したことや自身の課題をワークシート（毎時間の振り返り）に書く。 			
第2時 (本時)	<p>◎ウクレレの音色や奏法を生かしながら、伴奏のリズムを工夫して「おどるポンポコリン」をどのように演奏するかについて思いや意図をもつ。</p> <p>○リズム・パターンを基に「おどるポンポコリン」の伴奏の仕方を考え演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時を振り返り、4種類のコードの響きの特徴や左手の押さえ方を確認する。 ・8種類のリズム・パターンの特徴を、様々なストローク奏法で演奏し確認する。 ・「おどるポンポコリン」の伴奏の工夫について前時を想起しながら、音に出して試す。 <p>○ウクレレの音色や奏法に気を付けて、曲にふさわしい伴奏に近付けるため</p>			

	<p>にはどのように演奏すればよいのかを追求し思いや意図をもつ。〈ペア〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアとなり、個人で考えた伴奏の工夫を伝え合い、考えを共有する。 ・互いの工夫した伴奏を実際に音に出して共に演奏し、ストロークのリズムを工夫することによって生まれるよさや面白さを感じ取る。 ・どのように伴奏を工夫したらよいかをペアで話し合いながら考えをまとめ、音に出して試したりワークシートに書き込んだりする。 ・幾つかのペアの演奏を聴き、全体でよさを共有し自分たちの演奏に生かす。 <p>○本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時を振り返るとともに次時の学習内容を見通し、本時に大切だと思ったことや自身の課題をワークシート（毎時間の振り返り）を書く。 		 思 観察・記述	
第3時	<p>◎ウクレレの音色や響きと奏法の関わりに関心をもち、本題材の学習を振り返りながら学習活動に取り組むとともに、ウクレレの演奏に必要な技能を身に付ける。</p> <p>○「おどるポンポコリン」にふさわしい伴奏の仕方を工夫して演奏する。〈グループ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2時までの学習を振り返る。 ・四人グループとなり、前時にペアで考えた工夫を共有し、ストロークのリズムを工夫することによって生まれるよさや面白さを感じ取る。 ・どのように伴奏を工夫したらよいかをグループで話し合っって考えをまとめ、実際に音に出して試したりワークシートに書き込んだりする。 ・いくつかのグループの演奏を聴き、互いの進捗状況を確認し、よさを学級全体で共有したり自分たちの演奏に生かしたりする。 ・再び四人グループとなり、「曲にふさわしい表現ができていないか」という観点で、意見を出し合い、曲にふさわしい伴奏の仕方を考え、グループで合わせて演奏する。 ・グループごと工夫した「おどるポンポコリン」の演奏を発表し、全体で聴き合う。 ・自分の演奏を振り返ったり、他のグループの演奏を聴いて感想を伝えたりする。 <p>○題材全体の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート（毎時間の振り返り）を書き、振り返った内容について学級で意見交換し、本題材で学習したことの価値を共有する。 ・学級全体で「おどるポンポコリン」を演奏する。 		 技 観察・聴取	 態 観察・記述

7 指導に当たって

◆第1期班テーマ ねらいを明確にした授業づくり

よい音楽の授業とは、生徒が「分かった。」「できた。」「またやってみたい。」という達成感や自信が得られる授業と考える。このような授業を実現するために、教師は常に指導のねらいや方向性をはっきりさせておくことが重要であり、取りこぼしのないよう全ての生徒にとって分かりやすい授業を実現することが大切である。本題材を指導するに当たり、配慮した点は次の通りである。

(1) 「児童・生徒理解」の視点から

一人一人のよい点を見つけてそれを全体に広め、褒めて伸ばす指導を行い、自信をもって伸び伸びと表現できる学級の雰囲気をつくるようにする。その中で、意欲をもてず努力を要する状況（C）と判断されそうな生徒がいる場合は、その生徒と対話しながらウクレレの演奏の音を確認め、困難を感じていることを把握し助言する。ワークシートへの記述が進まない生徒に対しては、本時の目標を再度確認したり、本時の活動の様子について質問したりして、ねらいに沿った考えがもてるよう促していく。

また、生徒自身が学習の終末に、毎時間の振り返りを書き自己評価するようにする。「学習してできるようになったこと」「友達の見意見を聞いて参考になったこと」、「次回頑張りたいことや反省点」などを記入するようにし、生徒の思いをしっかりと汲み取り、次の指導へ生かしていく。

(2) 「指導技術（授業展開）」の視点から

ウクレレのコードについては、全ての生徒が確実に習得できるよう、ICT機器を活用し分かりやすく示す。弦の押さえる位置を示したプレゼンテーション資料をテレビに映したり、コードを押さえた教師自身の左手や弦を鳴らす右手の角度を実物投影機に映して見せたりする。また、生徒が確認したいときにいつでも見られるよう、既習コードのポジションを常時掲示しておく。このように様々な方法で生徒に働きかけ理解を促し、扱うコードを無理なく習得できるようにする。

<プレゼンテーション資料>



(3) 「教材解釈・教材開発」の視点から

ア 選曲について

ウクレレの演奏に楽しみながら取り組めるよう、生徒が「楽しそう。」「弾いてみたい。」と思えるような身近で親しみやすい曲を選択する。原曲のコード進行が複雑で演奏が困難な場合は、無理なく演奏できるようアレンジし、既習のコードを置き換え、コードチェンジの回数を少なく編曲したものを準備する。以下は第2学年生徒がこれまでの演奏した曲である。生徒はまだ、ウクレレの入門期にあり、中学生の世代が受け入れやすい曲や知っている曲やを取り入れることにより、ウクレレ演奏への意欲をさらに高めていきたい。

曲名	使用コード
ハッピーバースデー・トゥー・ユー	C F G 7
香水（瑛斗作詞作曲）	C F G 7
日曜日よりの使者（甲本ヒロト作詞作曲）	C F G 7
ひまわりの約束（秦基博作詞作曲）	C F G 7 Am
デイドリーム・ビリーバー（ジョン・スチュワート作詞作曲）	C F G 7 Am
おどるポンポコリン（本題材）	C F G 7 Am

イ 楽譜について

演奏の手掛かりになるものとして、本題材では五線譜は扱わず、次に示すようなコードネームと小節の区切りを表した線、歌詞を記した楽譜を作成し、生徒はこれを見ながら演奏できるよう

にする。また、ウクレレやギターなどの記譜法として使われているタブラチュア譜は、生徒にとって馴染みが薄いため本題材では扱わず、楽譜を読むことに苦手意識をもっている生徒にも無理なく取り組めるようにする。伴奏の工夫を記録する際は、自分の考えを言葉や線、記号などを使って自由に書いてよいこととし、記録することが主な活動とならないように留意する。

<生徒用ワークシート> ※「おどるポンポコリン」のサビの部分

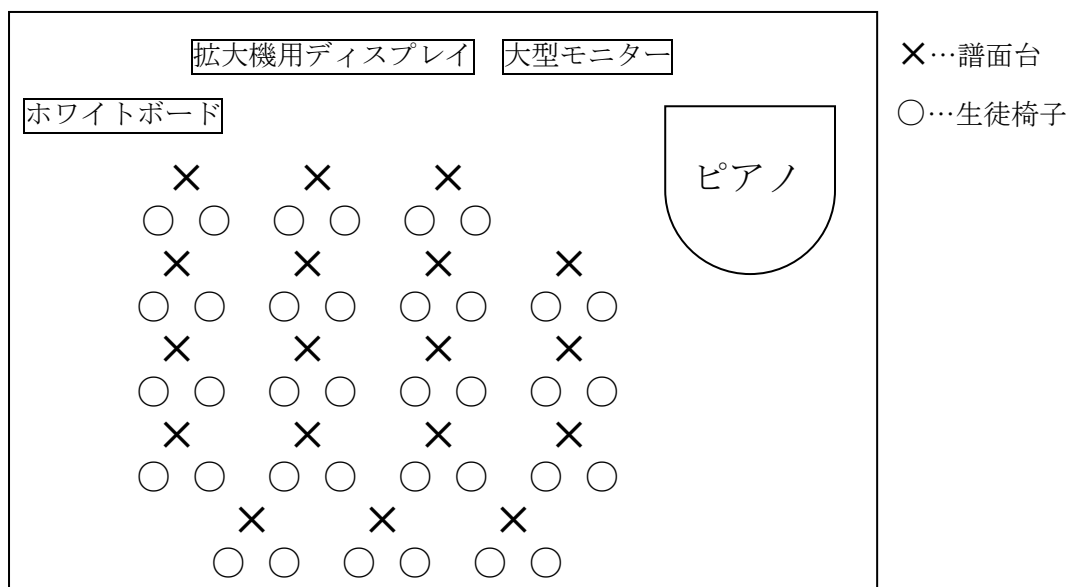
ピーヒャラピーヒャラ C \leftarrow	パッパパラパ C \leftarrow	ピーヒャラピーヒャラ Am \leftarrow	パッパパラパ \leftarrow Am \leftarrow
ピーヒャラピーヒャラ F \leftarrow	おへそがちらり F \leftarrow	G7 \leftarrow	タッタタリラ \leftarrow G7 \leftarrow

(4) 「主体的・対話的で深い学び」の視点から

ペアやグループでの活動を取り入れ、友達と豊かに交流することを通して楽しみながら活動できる器楽の学習を目指す。楽器の構え方や基本姿勢を一斉指導や個別の声掛けで繰り返し指導する一方、生徒同士が教え合ったり助言し合ったり場面をつくり、分からないことを気軽に訊ける雰囲気をつくる。また、個人の思いや意図を友達と共有したり、グループで試したことを全体に広めたりするなど様々な学習形態を取り入れることによって、多様な考えに触れ、学びを深めることができるようにする。なお、ペアやグループについては、音楽の技能に偏りがないように配慮するとともに、学級担任の意見を参考に生徒同士の人間関係等も考慮して編成する。。

以下は、第2時間目（本時）の教室環境の見取り図である。本時ではペアでの活動が主となるため、共通のワークシートを用いることで二人の協働を促すとともに、譜面台を二人で一つ配置することで机間指導し支援しやすい環境を整える。

<教室環境の見取り図>




8 本時（3時間中の第2時）

(1) 本時の目標

ウクレレの音色や奏法を生かしながら、伴奏のリズムを工夫して「おどるポンポコリン」をどのように演奏するかについて思いや意図をもつ。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	・指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 10分	<p>○これまでのウクレレの学習を振り返り、本時の目標を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウクレレのチューニングを行う。 ・全員で同時に一つずつ弦を鳴らし、音程を確かめる。 ・本時の目標を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「おどるポンポコリン」に合う伴奏のリズムを工夫して演奏しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の進め方を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学習の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> ①コードの確認 ②リズム・パターンの確認 ③個人で伴奏の工夫 ④ペアで伴奏の工夫 ⑤振り返り </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・チューナーを配布し各自チューニングするよう促すとともに、机間指導し生徒を積極的に支援する。 ・「学習の流れ」を掲示し、生徒が見通しをもって活動できるようにする。 	
展開 35分	<p>○4種類のコードを確認し「おどるポンポコリン」を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・C、G7、F、Amの響きの特徴や左手の押さえ方を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>G7 ジーセブン 三角形</p>  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と演奏するコードを分担し「おどるポンポコリン」を4ビートで演奏する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>C : 1班 Am : 2班、3班 G7 : 6班 F : 4班、5班 以上をローテーションする。</p> </div> <p>○リズム・パターンを基に「おどるポンポコリン」の伴奏の仕方を考え演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8種類のリズム・パターンの特徴を、ストローク奏法で演奏し確認する。 <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">○</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">♪♪</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">♪♪♪♪</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">♪♪♪♪</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">♪♪♪♪</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">♪♪♪♪</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">♪♪♪♪</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">♪♪♪♪</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・大型モニターで押さえる弦やフレットの位置を示す。 ・左手の指と指がぶつかりやすいG7は、左手を外側にひねると押さえやすいと助言する。 ・うまく押さえられない生徒には上から生徒の指を軽く押さえ、音が鳴るように補助する。 ・担当するコードが出てくる順にリレーのように弾くようにする。 ・担当するコードを順に交代していき、一つ一つのコードをしっかり確認できるようにする。 ・リズム・パターンを記したカードを基に、手で打ったり口ずさんだりして、それぞれの特徴を捉えるようにする。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・「おどるポンポコリン」の伴奏の工夫について前時を想起しながら、音に出して試す。 <p>○ウクレレの音色や奏法に気を付けて、曲にふさわしい伴奏に近付けるためにはどのように演奏すればよいのかを追求し思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアとなり、個人で考えた伴奏の工夫を伝え合い、考えを共有する。 ・互いの工夫した伴奏を実際に音に出して共に演奏し、ストロークのリズムを工夫することによって生まれるよさや面白さを感じ取る。 ・どのように伴奏を工夫したらよいかをペアで話し合いながら考えをまとめ、音に出して試したり共通のワークシートに書き込んだりする。 <div data-bbox="256 1021 735 1330" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される生徒の工夫例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に少しずつ盛り上げていきたいから、曲の始まりは二分音符で伸ばそう。 ・サビの前の「タッタラリラ」の部分は目立たせたいので、音を少なくしよう。 ・サビの部分は動きを付けてにぎやかな感じにしたい。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・幾つかのペアの演奏を聴き、全体でよさを共有し自分たちの演奏に生かす。 <div data-bbox="256 1487 735 1693" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【発問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのように伴奏のリズムを工夫していましたか？ <p>【補助発問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よかったところはどんなところですか。 </div> <div data-bbox="256 1727 735 1966" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冒頭は静かに始まり、だんだん盛り上がり変化が感じられた。 ・サビの直前一瞬、間ができるのが面白い。 ・変化があるとメリハリがあり、聴いていて飽きない。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に個人で考えた伴奏の工夫について、ワークシートへの記録を見て想起するよう伝える。 ・一人3分程度で交代し、互いのよい点や感想を述べ合う。 ・机間指導しながら、正しい奏法ができているか、適切なコードの響きを出せているかなど、一人一人の手元や姿勢を確認し、改善が必要な場合はさりげなく助言するようにする。 ・話し合いのみに終始しないよう積極的に音に出して試すよう声掛けする。 ・ワークシートへの記録が主な活動とならないよう、書くことに集中しすぎないように助言する。 ・曲にふさわしい伴奏の工夫をしているペアを取り上げ、どのような点がよかったのか考えながら聴くようにする。 ・演奏するペアは、演奏後に工夫した点を全体へ伝えるようにする。 ・全音符や二分音符を多用した変化の少ない教師の伴奏例を聴かせ、伴奏を工夫することの必要感をもたせるようにする。 <div data-bbox="767 1704 1192 1989" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何か物足りない感じがする。 ・聴いていて飽きてしまう。 ・ずっと同じで淡々としている。 ・なんだか盛り上がらない。 ・歌詞に合っておらず楽しくない。 </div>	<p>思 ウクレレの音色や「おどるポンポコリン」のリズム、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受感しながら、知覚したことと受感したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現としてどのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 (観察、記述)</p>
---	--	--

ま と め 5 分	<p>○本時の振り返りをする。</p> <p>・本時を振り返るとともに次時の学習内容を見通し、本時に大切だと思ったことや自身の課題をワークシート（毎時間の振り返り）に書く。</p>	<p>・本時の成果を褒め、生徒が前向きに取り組めるような言葉掛けをする。</p> <p>・次時はグループとなり、更に考えを広げながら伴奏の工夫をしていくことを伝える。</p>	
-----------------------	--	---	--

(3) 板書計画

ホワイトボード

目標
「おどるポンポコリン」に合う伴奏のリズムを工夫して演奏しよう。
<リズム・パターン>



サブ黒板

学習の流れ

- ①コードの確認
- ②リズム・パターンの確認
- ③個人で伴奏の工夫
- ④ペアで伴奏の工夫
- ⑤振り返り

大型モニター（プレゼンテーション資料）



(4) 授業観察の視点

- ア 教師が生徒のよい点を探し、褒める声掛けを行うことで、自信をもって伸び伸びと表現できる学級の雰囲気をつくることができたか。
- イ ウクレレのコードについて、ICT機器や掲示物を工夫して示すことで、生徒がウクレレの奏法を理解し習得することにつながっていたか。
- ウ コードネーム、小節の区切りを表した線、歌詞を記した楽譜（生徒用ワークシート）は、生徒にとって分かりやすく演奏を工夫する手掛かりとなっていたか。
- エ 生徒同士が教え合ったり助言し合ったりする場面をつくることで、友達と交流することを通して、楽しみながら器楽の学習活動に取り組むことができていたか。